

# 静岡県におけるフィールドトライアル —ビタミンK予防的投与とHepaplastintest によるスクリーニング法の1ヶ月時の Hepaplastintest 値に及ぼす影響の差異—

浜松医科大学産婦人科

寺尾 俊彦, 嵯峨 こずえ

## 目 的

静岡県では県衛生部、小児科医会、産婦人科医会が協力して昭和52年2月よりHepaplastin test (HPT)を利用した特発性ビタミンK(VK)欠乏性出血症発症予防のフィールドトライアルが開始して5年が経過した。主としてHPTによるスクリーニングを行ない、HPT低値例にVK投与が行われた。今回はHPT実施率およびVK投与の現況を調べるとともに、VKを予防的に投与した場合にHPT値にどのような影響を与えるのかを検索した。

## 方 法

HPT値は調査票を利用し浜松医大産婦人科のコンピューターにより集計した。昭和61年11月に県内各施設に、HPT実施状況、VK投与状況、またそれぞれの開始時期を記入するアンケートを送布し解折した。

昭和60年9月より浜松医大ではVK<sub>2</sub>シロップの予防的投与を行い、HPT値に及ぼす影響を従来行って来たHPTによるスクリーニング法と比較検討した。投与方法は出生翌日と日令5日、日令26日以降の3回、1回2mgを経口投与する。HPTは日令5日および日令26日以降の2回、シロップ投与前に測定した。

## 結 果

県下の248施設のアンケートを送布し昭和62年2月1日現在で206通(83.1%)回収された。そのうち分娩をとりあつかっている施設は156であった。HPTを実施している施設が139(89.1

%)で、そのうちで予防的投与を行っているものが32施設、治療的投与を行っているものが107施設であった。HPTを施行せずに予防的投与のみを行っている施設が13(8.3%)あり、両者をあわせると152施設(97.4%)がフィールドトライアルに参加していると考えられた。

昭和57年2月から昭和61年12月までの間に集計された調査票は85,238検体、50,127症例であった。そのうちVK予防的投与群が5,389例(10.8%)、HPTによるスクリーニング群が44,738例(89.2%)であった。スクリーニングの結果VK投与の必要であった投与群が2,311例(4.6%)投与の必要がなかった投与不要群が42,427例(84.6%)みられた。

1ヶ月後のHPT値をみると、40%未満の低HPT値例が358例(0.71%)みられ、さらに10%未満のニアミス例が38例(0.08%)あった。VK投与状態によって分類してみると、VK予防的投与群で低HPT値例が10例(2.01%)ニアミス例が3例(0.06%)みられた。HPTによるスクリーニング群のうちVK投与群では低HPT値例が53例(2.29%)ニアミス例が3例(0.13%)、投与不要群で低HPT値例が195例(0.46%)ニアミス例が32例(0.08%)みられた。

浜松医大でVK予防的投与開始後と従来のHPTによるスクリーニングを行っていた群の生後日数によるHPT値の変化を図1に表わした。1ヶ月後のHPT値が予防的投与群で高くなっていることがわかる。

浜松医大の予防的投与群と他施設をあわせたHPTによるスクリーニング群の1ヶ月後のHPT

値の頻度分布を比較したところ図2の結果が得られた。それぞれのピーク値をみると治療的投与群は90~99%と高く投与不要群と比較しても2ランク高くなっていた。

以上のように予防的投与によって1ヶ月後のHPT値が高くなる事がわかったが、予防的投与の投与方法の違いによってどのような変化を示すか表わしたところ図3の成績が得られた。Aは出生直後に1回だけ投与する方法、Bは退院時(5~7日)に1回だけ投与する方法、Cは出生直後と退院時の2回投与する方法である。1ヶ月後のHPT値はCが最も高く、Bとの間経有意差はみられなかったが、Aとの間には有意差がみられた。

### ま と め

現在静岡県ではVK予防的投与方法とHPTによるスクリーニング法が行われており、特発性乳児

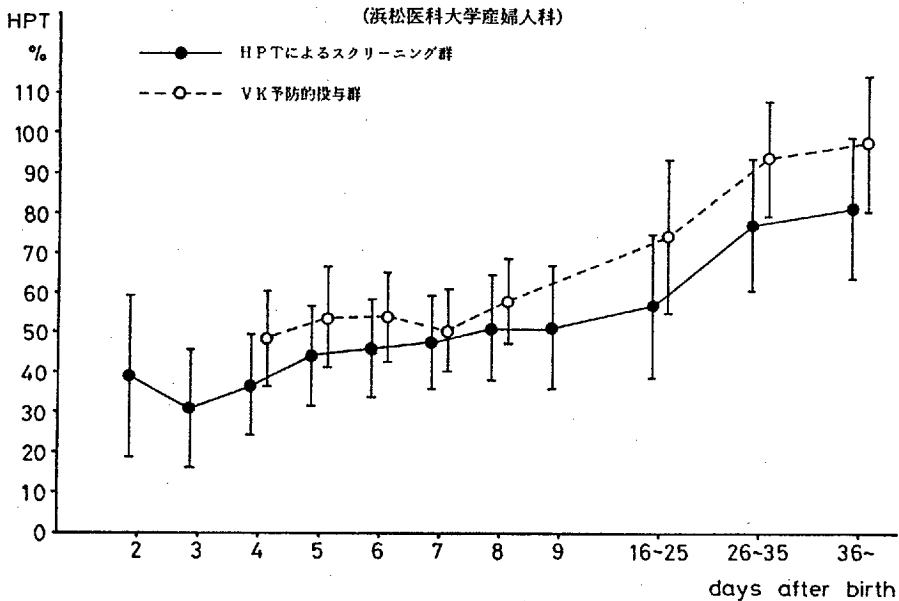
VK欠乏性出血症発症予防のフィールドトライアルへの参加率は両者をあわせて97.4%であった。いずれの方法でも1ヶ月後のニアミス例発生を完全に予防することはできないが、予防的投与群でニアミス発生率が最も低かった。1ヶ月後のHPT値をみても予防的投与によってHPT値が高くなった。また予防的投与群のなかでは出生直後と退院時の2回投与する群においてHPT値が最も高かった。

以上よりVK予防的投与は1ヶ月後のHPT値をひきあげるとともにニアミス発生率を下げ、VK欠乏性出血症予防に有効であると考えられた。

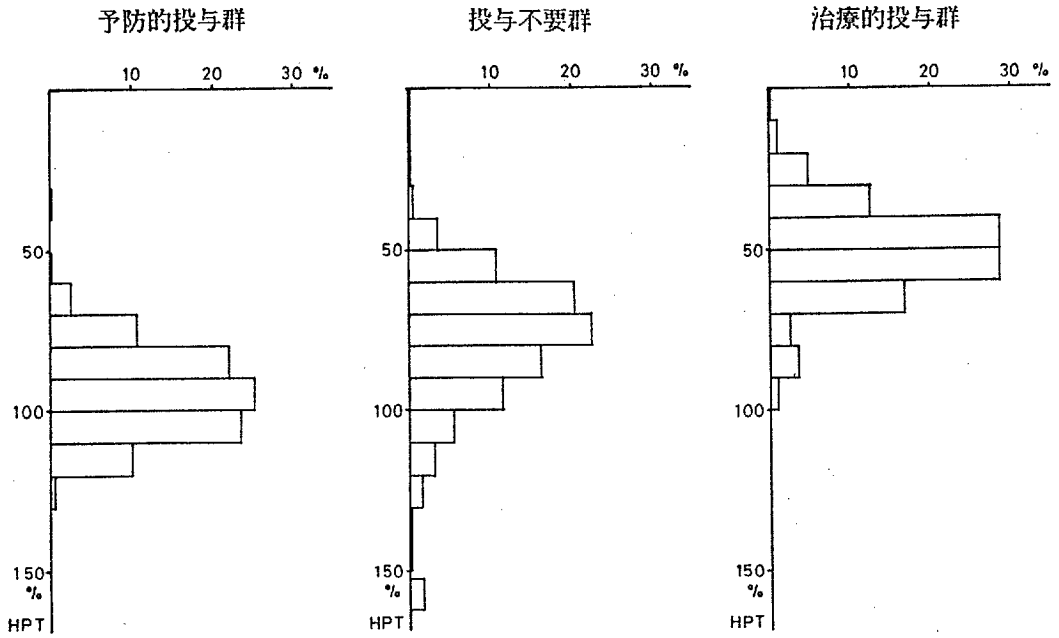
### 文 献

岡田 和親：産婦人科の世界，36：289-299，1984。

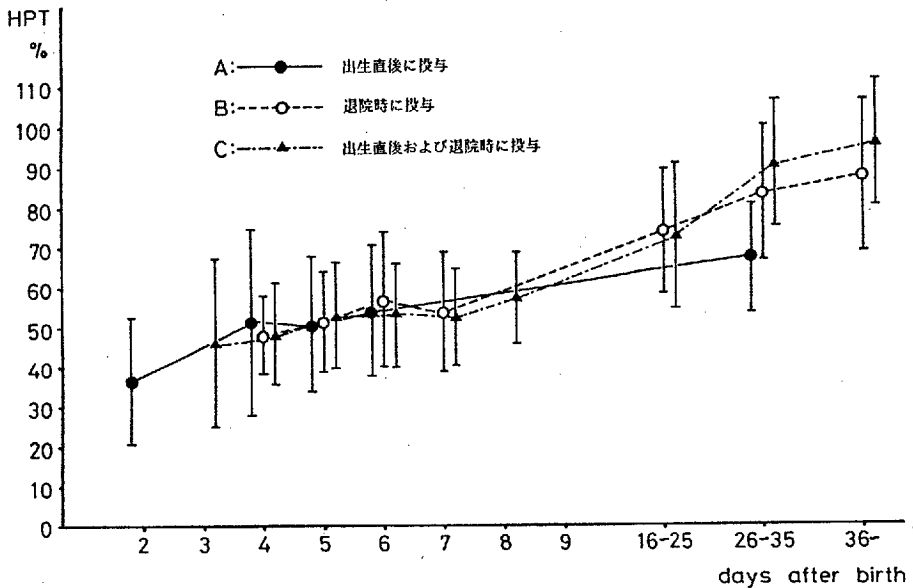
### 1) 予防的投与開始前後のHPT値の変化



## 2) 1ヶ月後のHPT値の頻度分布



## 3) 予防的投与方法別のHPT値の変化 (昭和59年以降)





**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



## 目的

静岡県では県衛生部,小児科医会,産婦人科医会が協力して昭和 52 年 2 月より Hepaplast in test (HPT)を利用した特発性ビタミン K(VK)欠乏性出血症発症予防のフィールドトライアルが開始して5年が経過した。主としてHPTによるスクリーニングを行ない,HPT 低値例に VK 投与が行われた。今回は HPT 実施率および VK 投与の現況を調べるとともに,VK を予防的に投与した場合に HPT 値にどのような影響を与えるのかを検索した。